

# 図書館だより

令和3年12月20日号

## 図書館こぼれ話

2学期の間、並び替えを行っていた文学の棚の作業が完了しました！今までよりも本が見やすく、選びやすくなりました。これを機に今まで以上に文学作品が読まれるようになれば嬉しいです。



2週間の蔵書点検も今日で終わり。明日はひさしぶりに図書館を開館します。冬休み用にたくさん本を借りにきてください。年内の開館は図書館カレンダーでも案内しているとおり、27日(月)までです。さて、今年も色々な本が話題となりました。トーハン調べの【2021年 年間ベストセラー】の上位には『スマホ脳』(アンデシュ・ハンセン 著)、『推し、燃ゆ』(宇佐見りん 著)、『52ヘルツのクジラたち』(町田そのこ 著)などが上位に入りましたが、みなさんのベスト本は何だったのでしょうか。来年もまた素敵な本とたくさん出会ってください。

## ●2021年これを読まなきゃ終われない！！

### 913.6-ナ 『臨床の砦』

夏川 草介 || 著 小学館

『神様のカルテ』の著者でもある夏川草介さんは現役医師。その夏川さんがご自身の経験をもとにして執筆したドキュメント小説です。コロナウイルスによって医療崩壊の危機が迫った現場で医師たちは何を感じ、どんな思いを胸に戦ってくれていたのか。多くのことに気をつけながら過ごしたこの1年を振り返りながら読むと、色々な思いがこみ上げてきます。

### 913.6-ヤ 『ばにらさま』

山本 文緒 || 著 文藝春秋

今年10月に逝去された直木賞作家 山本文緒さんが9月に出版した短編集。『どの作品にも「えっ」と驚くような仕掛けを用意した』という山本さんの言葉どおり、思いがけない展開が読者を引きつけます。特に表題作でもある『ばにらさま』は高校生でも共感したり、誰かを思い浮かべたりと身近に感じられる作品ではないでしょうか。

## ●気になる新着本

### 498-コ 『眠れなくなるほど面白い 図解 体幹の話』

木場 克己 || 著 日本文芸社  
「体幹を鍛える」という言葉はよく耳にしますが、体幹を鍛えると、どんないいことがあるのかは意外と知らないものです。体が引き締まるだけでなく、疲れにくい体になる、怪我をしにくくなる、いいことづくしの体幹力を無理なく鍛えて、今より健康な体を手に入れましょう。

## ●冬休みにゆっくり楽しんでほしいおすすめ本

### B933-シ 『サンタクロースの贈物』

新保 博久 || 編 河出書房新社

【クリスマス×ミステリー】をキーワードに国内外のミステリーが集結した短編集です。ホームズ、ミス・マープル、メグレ警部、エラリー・クイーン、と世界の名探偵たちはクリスマスシーズンも事件に出くわし、謎解きに大忙し。華やかなクリスマスを舞台に起こる様々な事件と探偵たちの名推理を心ゆくまで楽しんでください。

### 993.6-カ 『清少納言を求めて、フィンランドから京都へ』

ミア・カンキマキ || 著 草思社

人生に飽きた私が一年間会社を休んで向かった先は京都。内向的で日本語もできない私がヘルシンキから京都へ来たのは大好きな清少納言を研究するためだ。フィンランド生まれの小説で清少納言や平安時代の様子を楽しく知ることができるっておもしろい！きっとそう感じる1冊です。

### 913.6-ト 『7.5グラムの奇跡』

砥上 裕将 || 著 講談社  
視能訓練士として働く僕が不器用ながらも真剣に患者さんの目と心に向き合い、成長していく様子が描かれています。彼の奮闘ぶりからは「見える」ということは当たり前ではなく、奇跡なんだと伝わってきます。気づかぬうちに酷使している「目」を大切にしようという意識が芽生えてきます。

## ●司書の『今月はこの本を読みました』

「今は死ねない！」続きが気になるシリーズの新刊を手にしながらか帰宅するときには、普段より交通安全に気を配っている自分がいます。「八咫鳥シリーズ」は3年ぶりに第2部1作目となる913.6-ア『楽園の鳥』(阿部千里 文藝春秋)が去年出版されたのですが、人間視点だったので第1部からのつながりが明らかになっていない部分が多々ありました。それが2作目913.6-ア『追憶の鳥』(阿部千里 文藝春秋)では張り巡らされた伏線の一部が回収され、より壮大で深い話になりそうな予感がして続きが気になってワクワクします。和製ファンタジー界の傑作の一つと期待できます。私の交通安全週間はだいぶ長引きそうです【鈴木】